

7月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比^{*}DI値の動き

30年7月のDI値は8指標中、「売上高」「景況」「販売価格」が小幅ながら上昇。「収益状況」「雇用人員」は横這いであり、残り3指標は下落となった。

2. 県内中小企業の景況の現状

建設業や解体・電気工事業では仕事の受注が順調。また家電製品小売業では、引き続き季節商品の動きが活発であり、貨物運送業においても飲料品関係の荷動きが増加したとの明るい報告が寄せられた。

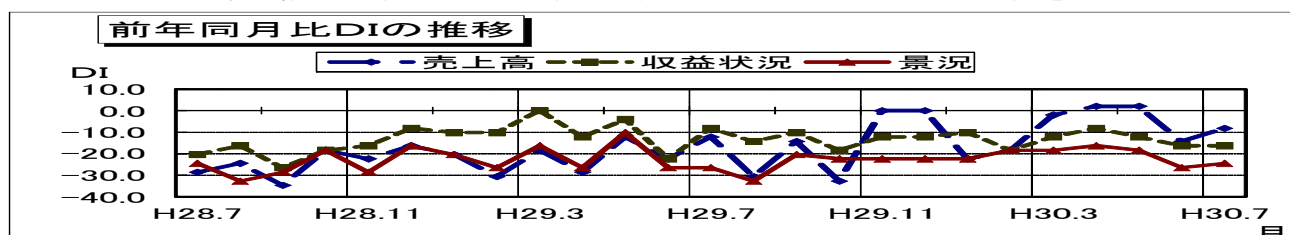
一方、慢性化する労働力問題をはじめ、原材料の高騰分を商品に価格転嫁しづらいことに加えて、西日本豪雨の影響として旅行のキャンセルの多数発生や運送業では被災地運行中の水没被害が生じた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H29 7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比 増減
景況	-26.5	-32.7	-20.4	-22.4	-22.4	-22.4	-22.4	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-26.5	-24.5	2.0
売上高	-12.2	-30.6	-14.3	-32.7	0.0	0.0	-22.4	-18.4	-2.0	2.0	2.0	-14.3	-8.2	6.1
収益状況	-8.2	-14.3	-10.2	-18.4	-12.2	-12.2	-10.2	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-16.3	-16.3	0.0
販売価格	-6.1	4.1	0.0	10.2	16.3	12.2	20.4	8.2	18.4	10.2	4.1	4.1	6.1	2.0
取引条件	-8.2	-6.1	-6.1	-4.1	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-6.1	-8.2	-2.1
資金繰り	-6.1	-8.2	-10.2	-10.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-8.2	-14.3	-6.1
設備操業度	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-6.1	-8.2	-2.1
雇用人員	-4.1	-12.2	-12.2	-18.4	-12.2	-14.3	-14.3	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	-14.3	-14.3	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比みその生産量は88.0%、出荷量は94.7%となった。連日酷暑の影響で消費は減退。したがって生産量及び出荷量とも100%割れとなり、売上低下の要因となっている。しかも原材料価格や運賃も高止まりしているため、価格値上げへの転嫁が余儀なくされている。

<繊維・同製品>

2. 縫製・外国人技能実習に関して、新制度の体制整備が不十分（日本国と外国との認識の相違である）煽りを受けて、3号の入国がスムーズに進まないため、生産性に影響が出ている。相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材の獲得が大きな課題である。売上、収益については、低目安定状態であるものの、国内販売の頭打ちの感は拭えず、特に人口減少とする原因が大きく、将来の景気回復への見通しは厳しい。

<木材・木製品>

3. 木材・夏場に入り暑い毎日が続く、あまり仕事はしたくない気分であり、仕事の頻度は下降しているが、手間がかかる仕事ばかりが増えている。
4. 製材・製材品の動きが悪く、全般的に売り上げの増加や収益状況の好転は聞かれず、厳しい状況が続いている。秋需に繋がる兆しも見えないが9月以降に期待。
5. 木材・災害の影響で原木丸太出材量は前年比減となっているが、価格がやや強含みで推移し売上げは増となっている。一方製品市況は依然、弱含みの横這いで全般に厳しく推移している

<印刷>

6. 印刷・もともと7月は恒例の行事が少ない月である。さらに今年県内では、イベントもほとんどなかった影響で売り上げが減少している。阿波踊り、夏祭り等があるものの、8月も落ち込みが予想される。営業方法を考え、顧客の印刷意欲をもっと刺激する等の対策が必要だ。
7. 印刷・春以降の業況は良くないようだ。特に6月7月と前年割れが続いている。7月下旬にかけては台風と暑さの影響か、ほとんど動きがないという声が多く聞こえてくる。宅配便を含む運賃の値上げが商品価格に転嫁できずにいる会社が多く、取引条件、収益状況共に悪化している。

<窯業・土石製品>

8. 生コン・7月も昨年同月に比べて約30%以上の出荷量減少になった。この差は昨年と今年で特需工事の出荷の有無によるもの大きい。ただ7月初めの豪雨による災害が深刻な地域もあり、今後は早急な災害復旧工事が見込まれることになるだろう。

9. 生 コ ン・7月の出荷数量は、対前年同月比8%の減少となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して官民間での新規新設工事が少なかったことが影響している。収益については、原材料の引き上げ交渉が終了しており、骨材及びセメント価格にまで及んでいる引き上げにより前年での売買単価引き上げの効果が薄れ厳しいものとなっている。今後の出荷数量も減少傾向にあり、県内生コン工場において収益面の見通しは厳しい。

<鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・景況感も横這い状況であり、業況、設備操業度などにも大きな変化は見られない。引き続き、原材料価格の上昇などによる製造コストの増などにより、収益増には繋がっていない模様である。また、人材の確保にも依然苦慮しているところである。
11. ステンレス・国内外ともに目立った大きな変化は無い。猛暑の影響による清涼飲料水関係の売り上げ増加や、国内の設備投資は改善傾向との事で、今後の中小企業の動きに期待している。外注品によっては、一部で納期遅れ等もあり。業種によっては高負荷な状態も見受けられる。

<一般機器>

12. 機 械 金 属・全体として、景況感に大きな変化は見られず、売上高や引合いなど良好な水準を維持している。ただ、顧客の設備投資増加等に伴う業況の好転が一部見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、従業員の確保難をはじめ、原材料の不足、原材料価格等の上昇などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸 売 業>

13. 食 糧 卸・高温障害が心配。

<小 売 業>

14. ショッピングセンター・売上高は全店計96.5%(既存店97.9%)、客数は95.1%(95.9%)。相変わらず100%を超えない月が続いているが、今月は若干良くなっている。7月も1回折込チラシを入れているが、6月のような催事は行っていない。建物がピロティ構造になっているので、豪雨・猛暑が続いた6月は「雨でも濡れずに店内に入れる」・「買物中の車内の温度が異常上昇しない」という利点で他の商業施設と差別化出来たのではないのかとも思われる。本来、天候や気温をアテにせず商品力・企画力・販促力で売上増加を計らなければいけないが、現在の気象状態は我々にはプラスになっているように感じる。
15. 電 気 機 器・7月も引き続き猛暑によりエアコン、冷蔵庫を中心に買換え需要が大きく伸長した。その他の商品は動きが鈍い。
16. 量 小 売 業・7月の豪雨により三好市の山間部で山砂くずれのため、公営住宅の空部屋への入居が急遽決まり、対応した。幸い今回の被害は県内は小さかったが高知、愛媛は水害の被害があり、徳島から応援の材料を運んだ。

17. プロパンガス・不需要期に入っているなので、引き続き、消費機器の交換期限が迫っているので、期限切れの無いよう、順次交換を行い、点検に努める。

<商店街>

18. 徳島市・7月は夏のセールで売上がとれる時期であるが、あまりの酷暑に人の動きが全くない状態。
19. 阿南市・夏まつりを開催したが、影響はなかった。

<サービス業>

20. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。当該業務は1年間で、年度初めの4・5・6月、年度中後期の11・12・1月に忙しい。8月、9月は工事、業務等の発注も7割がた終わり、落ち着いている。去年度とさほど変わらない。官指定のCADソフトが、CAD'Well → V-nasに移行する予定であり、官側からの正式通知はまだですが、V-nasソフト会社（川田テクノシステム株）からの情報もあり、現在見積もりを依頼しており、9月には、購入予定である。しかし、ソフト価格が20万円前後であり、当組合受注業務6件で、30台必要となる。約500万円今年度予算には組み込んでおり、マイナス決算になるかも？
21. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-10.9%の1,420台、中古車は-4.1%の463台、合計では-9.3%の1,883台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比8.2%の1,194台、中古車9.9%の455台、合計は8.6%の1,649台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-1.8%の3,532台と減少。売上高の判断基準にしている新車販売台数は、普通車が約10%減に対して軽自動車は約9%増。トータルで前年とさほど変化なし。車検や点検整備等のサービスに関する収益状況は軽自動車16%減、普通車は現時点で数値が不明だが、おそらく増加はしていない。
22. 旅行業・7月は西日本豪雨の影響でキャンセルが多数発生した。

<建設業>

23. 建設業・西日本建設業保証(株)徳島支店によると、徳島県の発注工事は、7月の請負額累計では32%対前年比増額となっている。国土交通省は前年度とほぼ同じ。市町村は、請負額で10%減となっている。
24. 電気工事業・新設住宅口数は311件であり、対前年比125.9%と増加した。
25. 板金工事業・仕事量は少し増加した。
26. 解体工事業・民間家屋解体工事について戸建住宅及び民間RC造大型工事共、前年より活況。公共工事については市町村での発注活況。

<運輸業>

27. 貨物運送業・一般貨物輸送は、月初の悪天候とその後の記録的な猛暑により生鮮野菜関係は大幅減少。その反面、ビールを中心とする飲料関係は増加。軽油単価は前月比、若干の上昇となったが今後、現状維持で推移してもらいたいものである。
28. 貨物運送業・7月に起こった西日本豪雨の影響は大きい。直接的な被害では、愛媛県大洲市などを運行中の車が被災し、渋滞に巻き込まれ水没した。また、中国地方へ運行していた車両が道路の寸断などによって数日間帰れなかったり、荷主から頼まれた緊急救援物資輸送や被災した県外営業所のカ

バーに回ることによって通常時とは違う非効率な運行が発生し、売上・利益面でもマイナスとなっている。長期的に影響があるのがJRコンテナで、鉄道の復旧が11月頃までかかる見込みとのことで、鉄道を利用する通運事業者にとっては大きな痛手となっている。